

UCI がトランスジェンダーのアスリートの国際大会参加に関する規則を改定

2023 年 7 月 14 日

国際自転車競技連合 (UCI) の理事会は、7 月 5 日に開かれた臨時会議において、トランスジェンダー女性のアスリートが UCI 国際競技大会日程上の競技大会に参加する権利に関する現行の UCI 規則を改定することを決めた。

UCI 理事会の会議はトランスジェンダーのアスリートが女子自転車競技大会に参加するための条件に関し UCI が主催した 6 月 21 日のセミナーに続いて開催された。このセミナーでは、トランスジェンダーおよびシスジェンダー (訳注: 生まれ持った性別と心の性が一致しており、その性別に従って生きる人、すなわち、トランスジェンダーでない人) のアスリート、科学・法律・人権分野の専門家並びにスポーツ関係機関など様々な利害関係者がそれぞれの立場を発表することができた。

今後、(男性として) 思春期を過ごしたあとに性別移行したトランスジェンダー女性のアスリートは、UCI 国際競技大会日程にある女子競技大会においては、すべてのカテゴリーに関して、各種種目への参加が禁止されることになる。

国際マスターズ大会 – つまり、UCI サイクリング・フォア・オール国際日程及び UCI 競技大会 (UCI グランfond・ワールドシリーズ、UCI グランfond世界選手権大会、UCI グラベル・ワールドシリーズ、UCI グラベル世界選手権大会及び UCI マスターズ世界選手権大会) におけるレース – に関しては、男子カテゴリーは男子 / オープンと改称され、女子大会への参加条件を満たさないあらゆるアスリートに制限なく出場を認められることになる。

UCI 理事会が知り得た現在の科学的知見では、少なくとも 2 年間の性別適合ホルモン療法により、1 リットルあたり 2.5 ナノモルの血漿テストステロン濃度を目標としても、男性の思春期中におけるテストステロンの利点を完全に取り除く上で充分だとは確認されていない。さらに、性別適合ホルモン療法に対する反応には著しい個人間変動があり、そのため、当該治療の効果について正確な結論を導き出すことはさらに難しい。現在の科学的知見からすれば、手足の骨の形状や配置などの生体力学的要素はト

ランスジェンダー女性のアスリートにとって永続的な利点となるかも知れない可能性も否定することができない。

こうした事実確認を踏まえて、UCI 理事会はランスジェンダーのアスリートがスポーツ競技大会に参加できることの利益を、保護すべきクラスだと見なされている女子カテゴリーのアスリートの利益と比較検討した。こうした背景において、UCI 理事会は、残存する科学的不確実性を考慮の上、女子クラスを保護し、機会均等を確保するための措置が必要だとの結論に至った。

ランスジェンダー女性の自転車競技者において性別適合ホルモン治療がパフォーマンス指標に与える影響についての現在の科学的知見に関する更なる情報は次を参照されたい:グザヴィエ・ビガール教授「ランスジェンダー女性の自転車競技者における性別適合治療がパフォーマンス指標に与える影響についての現在の知見」、2023年5月更新。

新規則は2023年7月17日に発効する。新規則は科学的知見の発展に伴い将来的に変更されることもある。この点を踏まえ、UCIは、性別移行ホルモン治療を受けている高度な訓練を受けたアスリートの身体能力の変化を調査することを目的とした研究プログラムへの共同出資について、国際スポーツムーブメントの他のメンバーとの協議を開始することになる。

ダヴィッド・ラパルティアン UCI 会長は次のように述べている。「何よりも第一に UCI が再確認したいのは、サイクリングは、スポーツ競技、レジャー活動または交通手段として、万人に開かれていることであり、その中には私たちが他の人々に対すると同様にこのスポーツに参加することを奨励しているランスジェンダーの人たちも含まれている。また、UCI としては、出生時に割り当てられた性別がなんであれ、個人の性自認に対応した性別を選ぶ権利を尊重し、支援することを改めて確認しておきたい。しかし、UCI には、何よりも、あらゆる自転車競技大会において機会均等を保証する義務がある。この至上命令こそが UCI をして、現在の科学的知見は、ランスジェンダー女性のアスリートとシスジェンダー女性の参加者の間でこうした機会均等を保証するものではないことから、予防的措置として、ランスジェンダー女性に女子カテゴリーで競技する許可を出すことはできないとの結論に導いた」